

外来患者におけるサルコペニアのスクリーニング
ーSARC-F 日本語版を用いてー

井田諭、村田和也、大久保薫、白倉由隆、今高加奈子、金児竜太郎、藤原僚子、高橋宏佳

加齢を主な原因とした骨格筋量低下を特徴とする、サルコペニアが近年問題視されている。サルコペニアは心血管疾患発症、死亡、日常生活動作（ADL）低下、転倒、及び医療費増大など、様々な負のアウトカムと関連することが明らかになっている。サルコペニアの診断は筋量、筋力、及び身体機能などより行われる。ただし、サルコペニアの診断のためのこれら評価を、日常診療におけるすべての患者に対して行うには困難な場合が多いと思われる。Malmstrom と Morley らは高齢者に対するサルコペニアの簡易スクリーニングツールである SARC-F を作成した。近年我々は高齢糖尿病患者を対象とし、SARC-F 日本語版（SARC-F-J）を作成し、サルコペニアと認知機能障害、うつ、過活動性膀胱との関連性、及び慢性肝疾患患者における妥当性について報告してきた。

当科では外来通院中の高齢糖尿病患者において SARC-F-J を用いてサルコペニアのスクリーニングを行い、該当する患者には栄養指導、運動指導、及びサルコペニアに関連する老年症候群のスクリーニングも同時に行っている。今回、当科における SARC-F-J を用いた取り組みについて、簡単にご紹介させていただく。